

あなもしりほんご

新 日 本 語

(二) 王二贵 编译
孙凤翔 注释
晋学军 练习

● 山西教育出版社

新日本语

王二贵 编译 晋学军 练习
孙凤翔 注释

山西教育出版社

社 长 任兆文
总 编 辑 左执中
责任编辑 李 凭
仇小燕
装帧设计 春 声

新 日 本 语

(二)

王 二 贵 编 译
孙 风 翔 注 释
晋 学 军 练 习

*

山西教育出版社出版 (太原并州北路69号)
新 华 书 店 经 销 平遥县印刷厂印装

*

开本: 850×1168 1/32 印张: 30.875 字数: 769千字
1991年10月第2版 1996年4月山西第6次印刷
印数: 129,301—137,300册

*

ISBN 7—80578—086—2
G·86 定价: 23.90元

原 书 前 言

1. 《日本語》Ⅰ是东京外国语大学附属日本語学校以初学日语的留学生为对象而编写的。

2. 本书是继本校编的《日语发音》、《日语——平假名和片假名》、《日本語》Ⅰ之后编写的，目的在于让学生掌握日语的基础结构。

3. 本书预定在本校全年教程的第二学期用大约350个学时学完。然后在第三学期（日本的学校是一学年三个学期——译者注）学习《日本語》Ⅱ，通过这一学习使学生在进入日本的大学之后，具有能用日语进行各种学习活动的的能力。

4. 本书由22课组成。采用的题材，有日常生活、文学、文化、社会、科学等方面的内容，涉及到较宽的面。为了培养熟练的语言能力，提出了许多必要的语言场面。

5. 各课分别由课文和练习组成。在课文方面，用各种各样的形式，把句型和文法提出来，以便学生能在文中正确理解。在练习方面，分别举出课文中出现的句型和文法，按照模仿、记忆、应用的顺序，安排了“言词的用法”、“填圆空白”、“填长方框”、“替换”、“变换说法”、“问答”等项目的各种练习。

6. 本书在课文和练习中的“言词的用法”里，提出的新单词

约3700个。

各课出现的词汇，作为“新词”分别归纳在各课的最后，全书提出的词语，作为“词汇索引”归纳在本书最后。

7. 汉字部分，新出现的汉字917个，不同读法的汉字459个，是分别从常用汉字别表中选出的。各课中提出的新出汉字和改变读法的汉字，分别在每课的最后归纳为“新出汉字”，全书中提出的新出汉字，在本书最后归纳为“新出汉字表”。

栏外标出的汉字，是新出汉字和改变读法的汉字。新出汉字原样写出，改变读法的汉字在字下划线表明之。

各课最后的“新出汉字”，也是新出汉字照样写出，改变读法的汉字下面划线，已出汉字上划了虚线样的圆圈，以示区别。

8. 关于假名用法方面，已根据现代假名用法予以统一。关于汉字部分，以常用汉字表、常用汉字改订音训表为基础，但音训表（附表）中的汉字都注了假名。

9. 以本书为依据，另外录制了供听力用的录音教材。

10. 本书的编辑工作，由铃木忍负责，在编写过程中不仅有本校教职员，还得到校外诸位的大力协助。特此说明，以表谢意。

昭和54年6月15日

东京外国语大学附属日本語学校



1 朝の 散歩

目が さめると すぐ 飛び起きて、庭に 出ました。

空は 青く 晴れて いて、雲一つ ありません。朝日が 庭いっぱい に さしています。ゆうべの 雨に ぬれた 木の 葉が、きらきら 光って い ます。ほんとうに 気持ちの い い 朝です。

わたしは むねいっぱい 朝の きれいな 空気を すい ながら、やわらかい 土を ふんで 庭を 歩きました。

向こうに 見える 森も 林も 家も 朝日を 受けて、 かがやいて います。どこからか ラジオたいそうの 音楽が 聞こえて きます。

小鳥も うれしそうに 鳴きながら、まだから えだに 飛び移っています。池には 水が いっぱい に なっていて、 金魚も 気持ち よさそうに 泳いで います。

わたしは しばらく 庭を 散歩してから、へやに も どって、朝ご飯まで 新聞を 読みました。

参 考 译 文

1 早 晨 的 散 步

我一睁开眼睛，就一骨碌爬起来，来到院子里。

晴空碧蓝，没有一片云彩。朝晖洒满了庭院。被昨晚的雨水淋湿的树叶，闪闪发光。真是一个清爽宜人的早晨。

我一边尽情地呼吸着早晨的清新空气，一边踏着松软的土地，漫步在庭院中。

对面的森林、树丛、房舍在晨曦里闪耀着亮光。不知从哪儿传来了广播体操的乐曲声。

小鸟欢快地叫着，从一个树枝跳到另一个树枝。水池涨满了雨水，金鱼也欢快地戏游着。

我在院里散了一会儿步以后，回到房间看报，一直看到吃早饭。

(插图 李诗堂)

新 出 单 词

- | | |
|--------------------|----------------------|
| 1. あさひ〔朝日・旭〕 | ①②(名) 朝阳, 旭日 |
| 2. は〔葉〕 | ◎(名) 叶 |
| 3. むね〔胸〕 | ②(名) 胸, 心, 内心 |
| 4. くうき〔空気〕 | ①(名) 空气, 气氛 |
| 5. つち〔土〕 | ②(名) 土, 泥土 |
| 6. ことり〔小鳥〕 | ◎(名) 小鸟 |
| 7. きんぎょ〔金魚〕 | ①(名) 金鱼 |
| 8. カーテン | ①(名) 窗帘, 幔, 幕 |
| 9. けんこう〔健康〕 | ◎(名, 形动) 健康 |
| 10. はら〔腹〕 | ②(名) 肚子, 心情, 度量 |
| 11. ストロー | ②③(名) 麦秆 |
| 12. ソーダすい〔ソーダ水〕 | ③(名) 汽水 |
| 13. スープ | ①(名) (西餐) 汤 |
| 14. カ〔蚊〕 | ◎(名) 蚊 |
| 15. いき〔息〕 | ①(名) 气息, 呼吸 |
| 16. けむり〔烟・煙〕 | ◎(名) 烟 |
| 17. みなさん〔皆さん〕 | ②(代) 各位, 大家 |
| 18. たいおんけい〔体温計〕 | ③(名) 体温表 |
| 19. もと〔元・本〕 | ②◎(名) 原样, 本源, 根本, 本钱 |
| 20. さめる〔覚める・醒める〕 | ②(自下一) 醒, 觉悟 |
| 21. とびおきる〔飛びおきる〕 | ④(自上一) 翻身起床 |
| 22. (ひが)さす〔(日が)射す〕 | ①(自五) (太阳) 照射 |
| 23. うける〔受ける〕 | ②(他下一) 接, 受, 蒙 |
| 24. かがやく〔輝く・耀く〕 | ③(自五) 辉耀, 放光辉 |

25. とびうつる〔飛び移る〕 (自五) 跳(转), 飞跃
26. かげる〔陰る〕 ②(自五)(日、月等)被遮住
27. さしこむ〔差込む〕 ①(自五)射入, 插入
28. ふく〔拭く〕 ①(他五)拭, 擦
29. あつまる〔集まる〕 ③(自五)集, 聚, 汇合
30. はく〔吐く〕 ①(他五)吐
31. ひろげる〔広げる〕 ②(他下一)扩展, 打开
32. すいこむ〔吸込む〕 ③(他五)吸入
33. ふる〔振る〕 ②(他五)摇, 挥, 撒, 甩
34. おとす〔落とす〕 ②(他五)扔下, 丢掉, 除去
- 35.すすむ〔進む〕 ①(自五)前进
36. あつい〔熱い〕 ②(形)热, 烫
37. きらきら ①(副・自サ)辉, 耀, 闪烁
38. ～こむ (接尾)……进……入

语法注释

一、句型和句法分析:

1. 第一册课文都是会话体裁, 第二册则是文章体裁。文章又可分为几种体裁, 本课从文体上看, 是记述文, 即记录和叙述人的活动或事情的情况的。记述文可以象本课这样用敬体, 但更多的是用常体。记述文往往记人用过去时态, 记事记物用现在时态, 或者开始和结束用过去时态, 而中间用现在时态。

2. 雲一つありません; 这句话里有两个体言、一个动词、两个助动词, 一个助词也没有。这种句型不多。这句有以下几个特点: ア. 两个体言中, 有一个数词, 数词可以不借助于助词, 而直接象副词那样修饰动词, 1. “雲一つ”, 有复合词的感觉, 不

必象通常那样，借助于“の”来连接，ウ。“一つ”在这里并不是具体的数量概念，而是最小数量的抽象概念。第一册出现过最少数量加“も”加否定词的用法，本课则不加“も”直接修饰动词，语义相同，只是没有强调的语感。还应注意到，正是在名词加数词形成复合词汇而不插入“が”或“は”之类的助词时，后面才不加も。

3. 本课的“いっぱい”，不是名词，而是形容动词或副词，“满”的意思。有几种用法。ア、直接连接在表示场所的名词后面，象上句“雲一つ”一样，有复合词汇的语感，起连用修饰的作用。如本文第三句“庭いっぱい”是满院，第六句“むねいっぱい”是满腔，练习1・(3)第五句“はらいっぱい”是满腹。其中，“庭いっぱい”后面接的“に”，不是形容动词“いっぱい”的连用形词尾，而是格助词“に”表示动作的归着点或事物的存在场所。イ、形容动词连用形接“なる”——“いっぱいになる”表示变化的结果，转为表示现状。如本文第十句，练习1・(3)第四句都是如此。ウ、练习1・(3)第一句、第三句“いっぱいだ”、“いっぱい”是形容动词作谓语，也可以理解为情态副词加断定助动词作谓语。エ、练习1・(3)第二句的“いっぱい”，修饰“集まる”，是副词的正常用法。

4. どこからか：是一种常见的句型，是第一册常出现的“どこか”、“何か”、“誰か”之类疑问词加からの句型的发展，“どこか”表示不定（不确知），加“から”，表示起点不定（不确知），即不知从哪里、不知从什么地方之意。可不可以说成“どこかから”呢？也可以，不过，“か”是表示不定（不确知）的副助词，接在“どこ”的后面，表示对于场所的不确知，接在“どこから”的后面，则表示对来源的不确知。

二、词法分析：

1. 复合词。两个独立的单词合在一起构成一个新的单词，

叫做复合词。组成复合词的两个单词，可能是同一性质的品词，譬如说两个都是名词，或都是动词，甚至就是同一个词的重复；另外，也可能是不同性质的品词，譬如说名词加动词，或名词加形容词，这种复合词的词性，一般取决于后面的词。例如名词加动词，复合以后成为动词。

本课出现的复合词“とびおきる”、“とびうつる”。都是动词和动词的复合。当然还是动词。两个动词复合时，一般是前面的动词为连用形，固定不变了，后面的动词是基本形（参阅第一册第十三课），并且按后面动词的活用种类进行活用，例如“とびおきる”，“とび”是“とぶ”的连用形，参加复合以后，就总是“とび”，不再活用了，而“おきる”是基本形，“おきる”本来是上一段活用，复合为“とびおきる”，还是上一段活用。两个动词复合以后，一种是以后面动词所表示的动作为主，前面起补充作用，如“とびおきる”，主要意思是“おきる”，加“とび”、意为飞快地，迅猛地，合起来是“翻身起床”之意，另一种是两个动词对等结合，两种动作同时进行，如“とびうつる”“とび”还是“飞”或“跳”的意思，“うつる”还是移动的意思，合起来是“跳着移动”的意思。此外，还有一种是后面动词只起辅助作用，或者变成接尾词，这时，以前面的动词为主。如本课的“すいこむ”，主要意思还是“すう”，吸，“こむ”表示“进”、“入”之意，只起辅助作用，合为“吸入”之意。

2. 助词

(1) に：格助词。本课“雨にぬれた”的“に”，表示动作、作用的出处、原因。“ぬれた”的原因是雨，可译为“被雨淋湿的。”

(2) と：接续助词。这里还是表示一个动作之后继续进行另一个动作，与第一册第二十四课大体相同。至此，“と”的用法已出现不少，大体整理如下：

- 〈1〉 格助词 表示并列。
- 〈2〉 格助词，表示动作、作用的对象或共同者。
- 〈3〉 格助词，表示或引用动作、作用、状态的内容。
- 〈4〉 接续助词，表示两个动作或状态的相继进行或出现。
- 〈5〉 接续助词，表示恒常条件。
- 〈6〉 接续助词，表示假定顺接条件。
- 〈7〉 接续助词，表示话题的根据和内容。

(3) を；格助词。这里表示移动性的动作进行的场所，如“庭を散歩する”。“で”也是表示动作的场所的，不过，移动性的动作一般还是用“を”。

(4) “そうに”是样态助动词“そうだ”的连用形，作连用修饰语用。凡是叙述第三者的心情、感觉时，一般要用这种样态助动词。

三、词汇分析：

もどる：意为向根据地或原来的出发点移动。这一点和帰る意思一样。例如“家に帰る”也可以说“家にもどる”，两者的不同点是，第一，沿着刚才走过来的路往回返时，用“もどる”不用“かえる”。如：“行き過ぎたから、半キロほどもどった”。（走过头了，往回返了大约一里地。）第二，“もどる”语义重点在于到达（应返回的地方），而“かえる”语义重点在于出发（为回去而出发）。例如：“お客さまはもうかえりました”。（客人已经回去了）。意思是客人已经离开了这里，这就是说“客人已经走了”之意，至于这个客人是否已回到他家，则不在表达范围之内。这时，如果用“もどる”，就比“かえる”的“到达”语感要强一些。

れんしゅう

1. 言葉の 使いかた (言词的用法)

(1) さす

① 月の 光が 青く さして いて、とても きれいで
す。

② そこは 日が さして 暑いですから、どうぞ ち
らに おいでください。

③ さっきまで 日が さして いたが、雲が 出て か
げって しまいました。

④ 日が さしこみますから、カーテンを 閉めて くだ
さいませんか。

⑤ 日の さしこまないへやは、健康に よく ありませ
ん。

(2) ぬれる

① 着物が 水に ぬれました。

② 雨に ぬれると、かぜを 引きますよ。

③ 手が ぬれて いるので、てぬぐいで ふきました。

④ かさを 持って いなかったので、すっかり ぬれて
しまいました。

⑤ 雨に ふられて、すっかり ぬれて しまいました。

(3) いっぱい

① 駅の 前は 人で いっぱいだ。

② 人が いっぱい 駅の 前に 集まって いる。

③ どの バスも いっぱいで、乗れない。

④ 川の 水が いっぱい になって あふれた。

⑤ はら いっぱい ご飯を 食べた。

⑥ 庭 いっぱいに 花を うえた。

(4) すう

① ストローで ソーダ水を すいました。

- ② この スープは 熱くて すえません。
- ③ かは 人間の 血を すいます。
- ④ 息を 鼻から すって、口から はきます。
- ⑤ 空気を すったり、はいたり します。
- ⑥ むねを 広げて、空気を むね いっぱい すいこみ
なさい。
- ⑦ たばこの けむりは すいこまないほうが いいです
よ。

⑧ ここで たばこを すっては いけません。

(5) もどる

- ① この 体温計は ふると、もとに もどります。
- ② 来すぎましたから、いま 来た 道を もどって くだ
さい。
- ③ みなさん、席に もどって ください。
- ④ 落とした お金は ほとんど もどって きません。
- ⑤ すすむだけでなく、まえに もどって ふくしゅうも
しなさい。

2. まるうめ(填圖空白)

- ① 目○ さめる。② 庭○ 出る。
- ③ この 道を行くと、駅の前○出る。
- ④ 家○ 出る。⑤ 三年まえに 国 ○出ました。
- ⑥ 日○出る ⑦ ころんで、手から 血○出ました。
- ⑧ 木の 葉○ 雨○ ぬれる。
- ⑨ 木の 葉○ 光って いる。
- ⑩ 土○ ふむ。
- ⑪ 人の 足○ ふむ。
- ⑫ 庭○ 散歩する。
- ⑬ 庭○ 歩く。
- ⑭ 音楽○ 聞く。
- ⑮ 音楽○ 聞こえる。

3. わくうめ(填長方框)

(1) れい (かがやく) 朝日が 庭 いっぱいに
かがやいています。

- ① (さく) 花が 庭 いっぱいに 。
- ② (はえる) 草が 庭 いっぱいに 。
- ③ (さす) 月の 光が 庭 いっぱいに 。
- ④ (出る) 星が 空 いっぱいに 。
- ⑤ (はる) シャシんが かべ いっぱいに 。
- ⑥ (おく) 本が へや いっぱいに 。

(2) れい (うれしい) うれしそうに あそんで います。

- ① (かなしい) ないて います。
- ② (おいしい) 食べて います。
- ③ (おもしろい) 話して います。
- ④ (楽しい) 歌って います。
- ⑤ (いたい) 歩いて います。
- ⑥ (いそがしい) はたらいて います。
- ⑦ (まずい) 飲んで います。
- ⑧ (ねむい) 聞いて います。
- ⑨ (気持ち いい) ねむって います。
- ⑩ (おもしろく ない) 見て います。

4. おきかえ (替换)

(1) わたしは 朝 起きると すぐ ご飯を 食べます。

- ① 顔を あらう ② 歯を みがく ③ お茶を 飲む
- ④ たばこを すう ⑤ 新聞を 読む ⑥ ラジオたいそ
うをする。⑦ 散歩を する ⑧ 何か 食べる

(2) わたしは きれいな 空気を すいながら, 庭を 歩き
ました。

- ① たばこを すう ② 歌を 歌う ③ 話を する
 ④ 手紙を 読む ⑤ いろいろな ことを 考える
 (3) どこからか ラジオたいそうの音楽が 聞こえて きます。

- ① 人の 声 ② 女の 人の 声 ③ 子どもの 声
 ④ 小鳥の 鳴き声 ⑤ 自動車の 音 ⑥ ひこうきの 音
 ⑦ 人の わらう 声 ⑧ 女の 人の 話す 声
 ⑨ 子どもの さわぐ 声 ⑩ 小鳥の 鳴く 声
 ⑪ 自動車の 走る 音 ⑫ ひこうきの 飛ぶ 音
 5. 問いと 答え (問答)

- (1) あなたは 毎朝 何時ごろ 目が さめますか。
 (2) 目が さめると、あなたは すぐ 起きますか。
 (3) 朝 起きると、あなたは すぐ 何を しますか。
 (4) あなたの へやには 日が よく さしますか。
 (5) あなたは ラジオたいそうを やった ことが ありますか。

练 习 答 案

1. 言葉の使いかた

- (1) さす
 ① 皎洁的月光照射着，非常美丽。
 ② 那儿太阳晒得热极了，请过这边来吧。
 ③ 刚才阳光普照，而今云雾遮蔽。
 ④ 太阳照进来了，请把窗帘拉上。
 ⑤ 阳光照不到的屋子对身体不好。
 (2) ぬれる